



# 学校安全ネットワーク情報

Vol.33(4/4)

## ③抵抗性

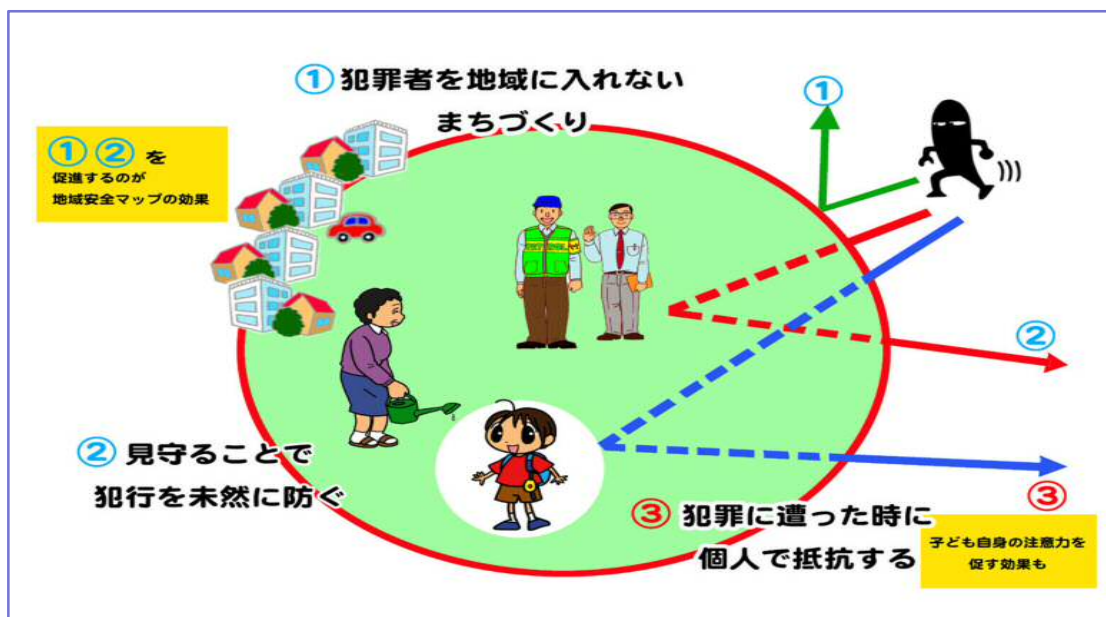
目の前の犯罪者に 被害者が独りで立ち向かう力

①領域性、②監視性を高めることでそもそも犯罪に遭いにくい地域を作ることができますが、それでも犯罪者と遭遇してしまうことはあります。その場合には、ダメージを軽減する必要があります。具体的には、防犯ブザーを鳴らす、大声を出す、走って逃げる等の従来の防犯の方法が挙げられます。

ただし、これらは予防ではありません。また、子どもによって、出来る子と出来ない子がいます。

例えるなら、【風邪を引く前にうがい・手洗い】＝領域性、監視性で予防し、【風邪を引いたら薬、病院】＝抵抗性で被害を軽減する。その両方を上手に活用することが重要です。

これまで説明してきた①領域性、②監視性、③抵抗性の3つの要素が効果的に機能すると、以下の図のようになります。



万が一、子どもが被害に遭ってしまった場合、以下のような言葉をかけて、子どもの気持ちに寄り添うことが重要です。

「あなたを信じるよ」  
「あなたは悪くないよ」  
「私を信じて話してくれてありがとう」

### 【お知らせ】

学校や自治会等で、実際に町歩きを行う地域安全マップづくりをNPO法人地域安全マップ協会に依頼できます。内野氏と連絡をとりたい方は、健康教育課(電話 048-829-1679)までご相談ください。